

人口減少対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和元年6月28日（金）
午前9時28分 開会
午前11時44分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 奥村 忠俊
副委員長 上田 倫久
委員 足田 仁司、伊藤 仁、
嶋崎 宏之、清水 寛、
田中藤一郎、椿野 仁司
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼庶務係長 小林 昌弘
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

人口減少対策等調査特別委員長 奥村 忠俊

人口減少対策等調査特別委員会 次第

日 時：令和元年6月28日(金)9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項について（進捗状況と今後の計画等）

【政策調整部】 政策調整課

【総 務 部】 ワークイノベーション推進室

【健康福祉部】 健康増進課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項 <別紙1>

4 その他

(1) 管外視察について

・日にち：令和元年7月11日(木)～12日(金)

・場 所：鳥取県八頭郡八頭町、智頭町、倉吉市

(2) 管内視察について

・日にち： 月 日 ()

・場 所：

・内 容：

5 閉 会

人口減少対策等調査特別委員会重点調査事項

H31. 4. 17

- 1 移住・定住促進に関する事項
- 2 結婚支援・多子出産応援子育て支援に関する事項
- 3 産業振興等、地域活性化対策に関する事項
- 4 人口減少等にかかる諸課題に関する事項

人口減少対策等調査特別委員会名簿

=6/28委員会は出席不要です

【委員】

平成31年4月1日現在

職名	氏名
委員長	奥村 忠俊
副委員長	上田 倫久
委員	足田 仁司
委員	伊藤 仁
委員	嶋崎 宏之
委員	清水 寛
委員	田中 藤一郎
委員	椿野 仁司

8名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
政策調整部長	塚本 繁樹	政策調整課長	井上 靖彦
総務部長	成田 寿道		
総務部次長兼ワークイノベーション推進室長	上田 篤	ワークイノベーション推進室参事	(欠席) 岸本 京子
健康福祉部長	久保川 伸幸	健康増進課長	宮本 和幸
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	柳沢 和男

6名

【議会事務局】

職名	氏名
主幹	小林 昌弘

15名

午前9時28分開会

○委員長（奥村 忠俊） それでは、おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから人口減少対策等調査特別委員会を開催いたします。

本日、ワークイノベーション推進室の岸本京子参事より、委員会を欠席する旨の申し出があり、これを許可しておりますことをご了承願います。

なお、本委員会にはさまざまな分野からの情報が必要になる場合があります、これを正確に、かつ速やかに調べるため、当局がインターネットを使用できるパソコンを持ち込まれて使用されてることについて許可しておりますことを報告いたします。

それでは、一言ご挨拶申し上げます。久しぶりに委員会ということになっておまして、梅雨にいいよ入ったということもあって、また台風等も近づいておるところもありまして、ちょっと気になるところでございます。大阪サミットが始まるということになっておまして、どういう状況になるかわかりませんが、とにかく景気がよくなったり、安心安全ということで、地球規模での平和を希望しているところでございます。

それでは、本日の委員会、午前中ということで予定いたしておりますけれども、皆さん方の積極的なご意見をお出しいただきますよう、お願いいたします。

それでは、協議事項に入ります。

委員会所管事項について（進捗状況と今後の計画）、まず政策調整部、総務部、健康福祉部の順に説明をお願いします。説明を聞いた後で質疑に入りたいと思います。

それでは、政策調整部から順次説明をお願いします。どうぞ、お願いします。

○政策調整課長（井上 靖彦） まず、地方創生全体のことについて、推進なり進捗状況等をお知らせさせていただきます。資料をごらんください。まず、進捗状況でございます。1、地方創生戦略会議の開催。去る6月10日月曜日に地方創生戦略会議を開催いたしました。内容につきましては（2）に書いてありますとおり、1つは地方創生総合戦略の効果

について、イ、ジェンダーギャップの解消を目指して、ウ、深さを持った演劇のまちづくりについて。この2つにつきましては、今年度の話題の事業というようなことで委員の皆様にご紹介をさせていただきました。エでは地方創生総合戦略（第5版）今年度の戦略の改定の趣旨等をご説明をさせていただいております。オとしまして、第2期地方創生総合戦略の策定について考え方を説明させていただいております。

2つ目でございます。第2期地方創生総合戦略の策定ということで、7月の3日から庁内の検討委員会を開催いたしまして、その戦略の素案といいますか、どのようなことをしていこうというようなことを諮っていきたいと思っております。2つ目に、地方創生戦略会議につきましては、さらに今年度は9月と11月に開催をしながら、この第2期の戦略についての意見をいただこうと思っております。3点目につきましては、市民の意見交換ということで、この第2期についての考え方がわかった時点ぐらいで市民の方に直接意見を聞くようなこともしていきたいなというふうに考えております。

続きまして、資料をごらんください。資料1と資料2につきましては、先ほど申し上げました地方創生戦略会議の中で、その効果についてご説明をした資料でございます。資料1につきましては、昨年度の第4版の戦略体系図に基づいて、2桁手段、それから4桁手段についてそれぞれ基準値から各年度の実績値、それから最終今年度末の目標値等を記載をしてご説明をさせていただきました。

続いて、資料2をごらんください。先ほど資料1で見ていただいたものをグラフ化したものでございます。1ページでございますが、かいつまんでちょっと特徴的なところを申し上げます。まず、1ページの中段、左から、左肩に④、⑤と書いてあるところがございます。④につきましては、移住定住のポータルサイトの閲覧数ということで、これはかなり目標値から多く伸びておまして、いろいろなどろろで見いただいているところが見てとれます。⑤につきましては、移住定住

窓口を利用して移住した人の数ということで、こちらにも目標値を大きく上回って、割と活用されているというふうに思っております。

続きまして、2ページをごらんください。2ページ上段右側の⑫認定新規就農者数、こちらにつきましては、これは累積でございますけれども、着実に人数がふえているという状況でございます。最下段の真ん中、⑬海外におけるコウノトリ育むお米取扱店舗数というところも目標値を大きく上回っているようなことになっております。農業組合につきましては、積極的なPR等も含めて順調に伸びているなという感がございます。2ページ、同じところでございますが、ちょうど真ん中のところの⑭但馬空港の利用助成件数等でございますが、これは伸びてはいるんですけれども、目標値が5,000でございますので、このあたり、順調とはいえ目標値にはちょっと届いてないというところでございます。同じく左下の⑯の外国人宿泊者数も、伸びてはいますけれども目標値的にもう少し頑張らないといけないなというところでございます。

3ページでございます。こちらは下の真ん中の②6のところでございます。婚姻数につきましては、目標値のほうが278に対して350前後というところで推移をしておりますので、これについてはかなり頑張った成果があらわれてるところかなというふうに思っております。

続きまして、4ページでございますが、上段の②8、左上になります、交際・結婚支援の仕組みを利用している人数というところで、こちらにも目標値を大きく上回って、若干波がございますが、順調に推移してるというふうに思っております。それから、その2つ右の③0のところですが、産後、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと考える母親の割合というところも、目標値を超えて伸びているというところでございます。

一方で、気になるところというところもございまして、これが資料3のところになります。資料2にも書いてありますが、資料3でごらんいただけたらと思います。出生数、自然増の中ほどに書いてあり

ます出生数でございますが、こちらが2018年、これは住基の人口でございますので1月から12月でカウントしておりますが、506ということで、前年に比べてかなりちょっと落ちているという状況でございます。右に移っていただいて、社会増減のところの転入・転出の合計でございますが、こちらはずっとマイナスで来ているんですか、2018はマイナス467ということで、かなり社会減が進んだというところが見てとれます。

ただ、これについても、さきの戦略会議のほうで意見をいただいたといいますか、中嶋副座長のほうから、これはやはり景気がよくなるとどうしても都会に出るという傾向もあるし、単年度のところで一喜一憂せずとも、もう少し長い視点で見たらというふうには言ってはもらっておりますが、現実としてこういう数値が上がっているということでご説明をさせていただきました。

以上がこの地方創生の成果というところで、これもまたさらに詳しい分析をしていきたいと思っております。

続きまして、資料4でございますが、こちらのほうに第2期地方創生総合戦略策定ということで、今のところの考え方を記載をしています。第2期地方創生総合戦略につきましては、切れ目のない取り組みを今後も続けていくということで主として向かっていくというふうにしております。基本的な考え方につきましては、現行と変わらず、(1)に書いてありますようなところを目指していきたいというふうに思っております。

2の計画期間でございますが、来年度、2020年度から2024年度の5カ年ということで考えております。その際、検討すべきキーワードということで3つございます。1つはジェンダーギャップの解消、2つは演劇のまちづくり、3つ、その他ということで、これまでの結婚支援、多子出産応援というところ、あるいは関係人口、外国人住民、また、短期的な成果につながる取り組みですとか、子供たちの社会参加といったところが、今後議論として意見をいただきたいというふうなところかと思

っております。

4の目標でございます。これについては現行の人口ビジョンに記載している内容を踏襲していこうというふうに思っておりますが、さきの委員会でも時点修正的などころは必要かというようなどころの意見もいただいておりますので、そこも踏まえて今年度また検討していきたいと思っております。

その裏面でございます。5の戦略体系と指標については、これは新たに検討していくというところがございます。

6の策定スケジュールにつきましては、一番最初にご説明をしたとおり、意見を聞きながら進めていきたいということと、2月の上旬にはこの戦略としての策定をしていきたいと思っておりますので、また議員の皆様にもご意見をいただきたいというふうに思っております。

7番、参考としまして、人口ビジョンのこと、それから、国の動向、県の動向と書いておりますが、国と県につきましても同じように検証を踏まえて改訂版第2期をつくっていくというふうに聞いております。以上でございます。

○委員長（奥村 忠俊） それでは、続いて総務部。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） お手元に2019年度ジェンダーギャップの解消に関する取り組みという資料をお配りしております。まず1ページをごらんいただきたいと思えます。こちらにつきましては、一応、柱としましては大きく4つに分かれます。ジェンダーギャップ全体の解消、それと、ワークイノベーション事業の推進ということ、これは市内の事業所向け、3つ目が豊岡市役所のキャリアデザイン、市役所向け、4つ目が子育て中の女性の就労促進という、この4つについてご説明したいと思えます。

まず1ページです、ジェンダーギャップの解消で、まず1つは（1）にございますようにシンポジウムを5月20日に開催しました。これは、市内の事業所の皆さん、市民の皆さんと一緒にジェンダーギャップの解消を考えて理解を深める機会としてシンポジウムを開催しました。250名のご参加をいた

だいて、講演、それと座談会を実施しました。

（2）です、映画「ビリーブ」の上演支援ということで、これ、ちょっと豊劇さんのほうで5月31日から6月13日まで上映されたジェンダー平等に関する映画だったんですけど、これを豊劇さんと、あと、イーブンネットたじまさんという男女共同参画推進されてる団体と、市とで上映のPRの協力するなど支援をしました。

3つ目が、（仮称）ジェンダーギャップ解消戦略の策定準備ということで、2018年度っていうんですか、ことし1月にはワークイノベーション戦略とキャリアデザインアクションプランをつくったんですけど、これを踏まえて新年度に準備を進めます。準備というのが、地域、家庭、職場を対象にしたジェンダーギャップの解消の戦略を新年度、2020年度に策定すべく、今年度は準備を進めていくということでございます。既に5月20日のシンポジウムの講師も務めていただきました専門家の大崎麻子さんにアドバイザーにご就任いただいて、アドバイスをいただきながら準備を進め始めております。

（4）が男女共同参画社会推進に係る一時保育事業の実施ということで、これは女性の方もできるだけの社会参加をどんどん促すために、子供さんの一時保育という取り組みを進めながら、いろんな事業にも参加しやすくするための環境づくりのために実施しております。

5つ目が男女共同参画週間っていうの、ちょうど今、6月23日から29日ですか、1週間設定されているんな取り組みを進めてるんですけど、次のページ、2ページごらんいただくと書いてます。図書館のほうでそういうコーナーをつくりまして、PRもしております。

2つ目がワークイノベーション事業の推進ということで、まず1つが5月8日に厚生労働省の兵庫労働局と豊岡ワークイノベーション推進会議、これ、去年10月にできました、市内の今、21事業所から成る組織なんですけど、そちらと豊岡市の3者で豊岡市女性の就労に関する協定を締結して、これを

もとにさらに女性就労に関して機密に連携しながら3者で進めていくということでございます。

(2)で、各事業所対象の各種セミナーの開催を7月4日を皮切りにスタートする予定でございまして、その表にありますように、経営者向けですとか人事担当者向け、管理職向け、女性従業員向けという、それぞれの階層別にセミナーとかワークショップを行いながら、このジェンダーギャップ解消に向けて、1歩ずつですけど取り組みを進めるということでございます。

次のページ、3ページです。(3)に事業所の従業員アンケートの実施ということで、これは去年市役所の職員約500人を対象にやった意識調査で、働きやすさとか働きがいについての調査をやって、かなり厳しい結果が出て愕然としておって、それに対して対応してるんですけど、これは市内の事業所向けにも実施していくという予定にいたしております、希望される事業者に対して。

3つ目が豊岡市役所のキャリアデザイン事業の推進ということ、これは市の職員向けです。4月、5月とキャリアデザイン研修、全職員対象と、あと管理職、課長級以上の管理職対象にそういう研修を実施してまいりました。3つ目のこまにございますように、きょうから女性のためのリーダーシップ研修を4回シリーズで、それとあと、若手職員実践力強化研修ですとか、復職者研修って育休中の職員、それと30年度に復職する予定の職員を対象とした研修ですとか、この4月、5月のキャリアデザインと管理職研修を受けられなかった職員の追加研修ということで、この8月にかけて実施する予定にいたしております。

次の4ページをごらんいただきたいと思います。これ、全職員対象のキャリアサポートシートというもの、自分のキャリア、ありたい姿とか、実際のライフイベントっていうものも含めながら、上司と年3回コミュニケーションを図るっていう、そういうシートを作成して、上司、部下のコミュニケーションの質を高めることを目的として、これ、進めておるんですけど、これを今年度はスタートいたします。

これ、7月から3月の予定です。通年で男性職員の育休の取得促進、5年後には対象者の100%取得を目指してるんですけど、これをまず今年度からスタートしていきます。それと、2020年、来年1月から2月にかけて、職員の意識調査を今年度実施しまして、昨年度との意識調査との比較検証、すみません、「較」が抜けております、すみません、比較検証、それと、KPIの達成状況の確認と課題の整理を行っていきます。

4つ目の柱でございます、子育て中の女性の就労促進ということで、これはよくプチ勤務と言われる、例えば少日数短時間勤務、週に2日、3日とか、1日2時間、3時間とかっていう、子育て中の女性が働きやすいように、例えば業務とかシフトを細分化切り出していって、それをマッチングしていくっていう事業を昨年度から実施してるんですけど、ことしも10月21日のマッチングのお仕事大相談会に向けて、子育て中の女性に、豊岡駅前のアイティの7階の子育て総合センターにお越しになる親子、そのお母さんとかに対して働きかけていって、まず去年、既にプチ勤務を実施されてる子育て中の女性をロールモデルにして座談会をやったりとか、実際の子育てしながら働くためにどういうことの準備が要るのかっていうあたりのワークショップをしたりとかをしていながら、市内の事業所についてもこのプチ勤務のPR、営業活動に回って、10月21日にそのマッチングの機会を持つ。それに向けてプチ勤務のパンフレットを現在つくってまして、これ、7月に入ったら各市内事業所ずっと営業に回っていきたいと思います。それと、実際出店される企業さんの「お仕事カタログ」、子育て中の女性にすぐわかりやすいように、魅力が伝わるようなパンフレットをリクルート出身の方にもちょっとサポートしていただきながら進めております。総務部のほうから、以上でございます。

○委員長(奥村 忠俊) それでは、今度、健康福祉部。

○健康増進課長(宮本 和幸) ハートリーフ推進室関係です。資料としては、すみません、ございませ

んが、基本的には今までからやってる事業を推進していくということになってまして、昨年から変わったところが婚活イベントのは一とピーの関係が直営になったということで、今年度に入ってからは2回実施して、それから、参加者が53人、カップルとして成立したのが11組ということになってます。

それともう一つ新しいところが、ママによる子育て世代向けのイベント開催事業の補助金っていうのを今年度からしてまして、6月2日にハグハグフェスタ豊岡というものが、そこの市役所の前の広場でありまして、この分に交付決定をいたしております。それ以外も粛々と事業を進めていくことで頑張っていきたいなと思っております。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

それぞれ取り組み状況、新年度に入ったわけですが、その説明をしていただきました。

これから質疑に入りたいと思いますが、どうぞ、どなたからでも結構ですので、ありましたらお願いします。

田中委員。

○委員（田中藤一郎） 地方創生の推進の分でありませけれども、データ、これがある意味、豊岡市全体のデータが出てるっていうような感じで、要は、僕はいつも聞くんですけども、各地域はどういう状況下になってるのかどうかっていうのは把握されてるんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 全体として把握はいたしておりません。ただ、それぞれの項目のところまでひよっとしたら各課が把握してるものがあるかもしれませんが、全体としては把握しておりません。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） やはり、それ、出してほしいなっていうのが、お願い事が1件と、あと、要はそのあたりをしっかりと分析しないと打つ手が変わってくると思うんですけど、そのあたり、どう考えられていますか。

○委員長（奥村 忠俊） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 議員のおっしゃることも理解するんですけども、ただ、地方創生全体の中でなかなか市内の移動というのをやりかけると、全体としてどこを目指すかっていうところがなかなか難しいかなというふうにも思っておりますので、あくまでも豊岡市全体として人口減少に向かっていくというようなところを検討していきたいというふうに思っております。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員、どうぞ。

○委員（田中藤一郎） だからこそ分析しないとだめと違います。言われてることは建前みたいな話をされてまして、結局のところ、それが無い限り課題が見つからないというふうに思うんですけど、もう一回そのあたりはやられることはないんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） 政策調整課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） おっしゃってることはわかります。また研究していきたいというふうに思っております。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員、今の、はいはい。

○委員（田中藤一郎） また研究とは、どれぐらいのレベルの研究。先送りっていう研究ではないでしょうね、確認で。

○委員長（奥村 忠俊） その他よろしいですか、今。

○委員（田中藤一郎） 答えていただきたい。

○委員長（奥村 忠俊） 政策調整課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） もう既に、さっき言いましたようにそれぞれの地域ごとに出ているデータもあろうかと思えますし、なかなか全体として地域ごとでとれないデータもありますし、人口移動なんかも内部の転居、転入っていうようなところもなかなかちょっと難しいんですけども、そういったところのデータのとは、とれるかどうかっていうのは、またそういったところでは研究していきたいというふうに思っております。できるところはやりたいんですけど、全てということになるとなかなか難しいかなというふうに思っております。

○委員長（奥村 忠俊） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） もう一つよくわからない、本

当に。

- 委員（椿野 仁司） いいですか。
- 委員長（奥村 忠俊） ちょっとよろしいか。
- 委員（田中藤一郎） どうぞ。
- 委員（椿野 仁司） いやいや、田中委員のちょっと今の発言に対して、ちょっと加勢する意味で私から申し上げたい。
- 委員長（奥村 忠俊） 椿野委員、どうぞ。
- 委員（椿野 仁司） 総花的にこういうのを出してきて、極端に言えば豊岡の市街地と、例えば但東町、それから竹野でもそうなんだけど、全く人口の少ないところと、それからその集落、そういったところと豊岡の市街地と一緒にして平均とってっていう話ではないんで。やっぱりここは、これ、豊岡として真剣に考えていかな、一番生命線だからさ、この、今の地方創生の戦略っていうのはね。いいことを並べ立てることも大事ですよ。でも逆に、僕が前からよく言ってる、その地域に本当に今、大きないろんな問題点、それから将来人口減少が起こることによって、大きな、はっきり言ってその地域が残っているかどうか瀬戸際にもうはっきり立たされてるわけでしょう、豊岡も。盛んに市長はもう財政が足りない足りない、厳しい厳しい、財政の危機だ危機だ。そんな一刻の余裕もないはずだ、もうはっきり言って。もう本当に。
- だから、そういうことから言うと、今、田中委員が言ってるように、もっとそれぞれの地域のことも十分把握した上で、例えば子供の数、出生率の問題もありました。例えば豊岡市全体としてどれだけの人が出ていくかっていっても、それはそれぞれによって違うと僕は思うね。だから、どこでどんな人間の動きがあったのかということも含めていくと、それはこの市役所の君たちが考えなくたって、データは振興局でさせたらよろしい、そんなこと、振興局で。考えてみるとか前向きじゃなくて、それ、絶対やってくれ。頼むは、それは。それやらないと議会としても、この総花的な議論で、机上の空論で話しとったらあかん。もうとにかく我々としても厳しい状態だってことを切実に思ってるからこそ、やっぱりあ

なたたちもそれは思ってるはずだから、だからそれを、じゃあ、どんなデータが欲しいかってことを我々の委員会でも考えましょう、議員も。あなたたちばかり言うんじゃないで。こんなことをこんなふうにして、こんなものを用意してほしいって、なあ、田中君。

- 委員（田中藤一郎） そうですね。
- 委員（椿野 仁司） そういうことも我々も考える。だから、あなたたちに一方的にあれやってこい、これやってこいって、こんなもん用意させろなんて、こういうことをこういうふうにして言うんだってことを我々もぶつけましょう、ねえ。それ、我々もするからさ。ぜひ、それ、ちょっとやってよ、本当に。なあ、田中君。
- 委員（田中藤一郎） 本当にやってほしいです。
- 委員（椿野 仁司） そうだな。
- 委員（田中藤一郎） はい。
- 委員（椿野 仁司） 彼は広く受けとめとってくれるけどね、なあ。いや、本当、どないな、それで。
- 委員長（奥村 忠俊） 今指摘ありましたように、先ほどの田中さんのやりとりでは全然前に進まないんで、今補足があったんですけども、やっぱりテーマが違うと思うんですよ、それぞれ地域でね、市内でも。ですから、その辺のことについてはやっぱり分析してとりかかっていたいただければと思いますんで、もう少しわかりやすい今の状況について。
- 委員（椿野 仁司） だから、委員長、いいですか。
- 委員長（奥村 忠俊） 椿野委員。
- 委員（椿野 仁司） 我々もどういうふうなものが必要なのか含めて、1回、去年の、私たち資料もらって、今ちょっと持ってきてないんだけど、申しわけないんだけど、忘れたんで。去年の人口減少の特別委員会の資料もちょっと1回見ながら、我々としてもこれを今後どういうふうに、どういうものが必要なかってことを我々も提案してやっていきたいと思うんだけど、それは何とかしてよ、それ。できないことあらへんやろ、あんたたち能力あるんだから。どない。
- 委員長（奥村 忠俊） 政策調整課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 極力できるものをしていきたいというふうに思っておりますので、またご提案をいただければというふうに思います。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

○委員（椿野 仁司） はい。

○委員長（奥村 忠俊） 田中さん、よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○委員長（奥村 忠俊） そのほかどうぞ。

足田委員。

○委員（足田 仁司） 地方創生の資料3、人口移動の表が載ってます。トータルの純移動がマイナス1,000を超えているということですね。何か委員会の中では、いや、やっぱり景気がよくなって転出超過じゃないかと、全く逆やと思うんですよね。私の見立てだと、より仕事のある実入りのいい地域に人は流れていってるように思います。だから、このペースで行ったら人口減少の度合いがさらに加速していきよんじゃないかなということをお心配してますので、そんな楽観論で流されるんじゃないかと、本当にここは大事な減り方の大きく変わった年のように見えます。ですから、先ほど来出てますように、市内の何がどこに弱いところがあつてとか、どの地域がどんな変動を起こしてるかとかいうのも、やっぱり緻密に調べるべきだと私も思います。これ、ちょっと意見。

それと、あと質問ですけど、ジェンダーギャップの関係で、資料の1ページ、(3)のあたりでたしかいろいろ取り組む目標といいますかテーマとして、地域、家庭、職場とこういう表現あつたと思いますが、これ、大賛成です。やっぱりかなり裾野にいろんな要因が潜んでると思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。その中で、今度、3ページのアンケート調査の話の中で、ちょっとこれ、以前にも説明があつたように思いますが、新職員の900人程度の職員にアンケート調査を行った、先ほど室長の説明の中でその結果に愕然としたという表現があつたように思うんですけど、その愕然とした中身は、どんなふうに使われたのか、ちょっと詳しいところを教えてください。

○委員長（奥村 忠俊） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 今、足田委員ご指摘の愕然としたという部分なんですけど、まず、やりがいという部分で、今回もKPIで最初35%まで持っていく、職員の、大いにやりがいがある、少しやりがいがあるっていう、全体ですると7割とかにいくんですけど、もっと基本部分のかなりやりがいがあるっていう部分で20数%という。最初は女性活躍で、女性の働きやすさ、働きがいっていうところからそれを取り組んでいったんですけど、それが女性だけじゃなくて男性もその比率っていうんですか、がかなり低いってことがわかりましたんで、思っていた以上に、想定していた以上に市の職員のやりがいっていう部分が低かつたっていうことに対して我々も反省をしながら、そのやりがいを少しでも高めていくような研修を実施していく、そういう職場づくり、職場風土、組織文化ってものをつくっていくということを考えております。

という中で、例えばやりがいっていう部分でも、市民の皆さんに対して役に立ったと思われたときにはかなりやりがいがぐんと上がるっていう、そういう特性は市の職員は持っているんですけど、総体的に、全般的に、先ほど言いましたように、やりがいという部分で思っていた以上に低かつたということにちょっと愕然としたという。言いながら、愕然としながら反省をしてるという、そういうことです。

○委員長（奥村 忠俊） 足田委員。

○委員（足田 仁司） わかりました。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいか。

清水委員。

○委員（清水 寛） ちょっと今の話にも関連してくるんですけども、先ほど来から出てます地方創生の資料3のところ、人口の出生が506少ない、社会増減が転出が多いっていうような数字がここに出てるという中で、当然今はそれを解消するために戦略づくりというのをされてるんですけど、それがつくってる時間の間にどンドンどンドンこの減少はとまらないということが一つあると思います。

その点に関しては一般質問などでもさせてはもらっているんですけども、今のやりがいという話でいえば、職員提案で、こういう数字とか状況というのは職員がそれぞれ身近に感じてることだと思いますし、そういうことに向けて、これに限らずなんですけども、職員が提案して事業、政策を進めていくという数というのがどのぐらい豊岡市は今あるんでしょうか。

○委員長（奥村 忠俊） どうですか。

ほんなら、総務部長。

○総務部長（成田 寿道） 大変難しい質問だとは思いますが、確かにいろんな予算要求とか事業を組み立てる中で、職員のほうから今担当している中でこういうふうにしていきたいというのが事業で上がってくるのは間違いなくあります。ただ、その率がどれぐらいかかって言われますと、ちょっとそんな調査はしてないのでわからないんですけども、というのと、もう一つは、政策的に進めていく部署と、例えば総務部とか会計課とか市民課とか、なかなか政策的に難しい部分については、やっぱり内部の事務改善であったり、やり方の部分についての話っていうのは出てるはずなんですけども、それが職場でどういうふうにもまく回ってるかっていうのは、そこについては今後特に力を入れていきたいなとは思っていますが、数字的にはちょっと確認できていないというのが現実です。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 清水委員。

○委員（清水 寛） この間の議会の中では、表彰制度というようなことを取り組みをされてるというのが一つありましたけども、例えば政策コンテストみたいなことっていうのは、豊岡市はされたりかっていうのは、今のところはないんですか。

○委員長（奥村 忠俊） 総務部長。

○総務部長（成田 寿道） 政策コンテストっていうことでっていうのではなくて、先日表彰制度を持ってるっていうものについては、それぞれの職場での、あるいは人が誰かを、私が誰かを頑張ってるな、ということすごかったなというのをあれば誰でも出せるっていう制度にしていますので、地道にこつこ

つやっているこつこつ賞とかいう、いろんな視点で捉えてそのことを上げていただくという制度にしているということで、じゃあ、このことについて何か提案ありませんかっていうものについても、職員提案を求めるところというような内容もございしますので、それもゼロではないという状況にはございます。ただ、全てのことについて職員の提案を求めてるかといったら、そうではないというような状況ですので、全くないということもないですけども、少ないのかなという気はしているところです。

ただ、政策っていうのは、先ほど言いました、部署部署でやっぱり考えるところがありますので、全然違う部署の者が単純に言ったからといって、なかなか現実に回っていくかどうかっていうのがわかりにくいのかなっていう気はしているところです。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 清水委員。

○委員（清水 寛） そうですね、最初のところに戻んですけども、いわゆるやりがいをつくっていくっていう中で、部署の部分で専門として取り組んでいく中での改善っていうか、そういうものっていうのは当然あるべきだとは思いますが、それを抜きにして、やはり公務員になったからにはもっともっと地域の問題とかそういうところに職員そのものが切り込んでいく必要っていうのもあるのかなと思うんですね。

今こういう話をしてるのはなぜかっていうと、実はいろいろ視察先とかを調べていく中で、いわゆる多世代の居住支援ということをしたらいんじゃないのかっていうことを、実はこれは職員提案で実施をされてる地域があるんです。そういう意味では、市の施策の中では非常に多いのが、だからこういうことをしますので補助金を出しますっていうことが非常に多いんですけども、私個人としては、補助金というのはいわゆる餅まきみたいなもんですよ。だから、まいてるほうもまかれてるほうも何かやってる感、させてもらってる感があるんですけど、現実的にはそれは問題を実質はほかのところ振ってるだけであって、本来的にはやはり職員が

自分たちはこういう検討、研究したことに基づいてこういう政策をしますっていうことがあってしかるべきだと思うんです。そういう意味では、計画をつくること、戦略をつくることに余りに注視し過ぎて、現実的な行動をしていくことっていうのがちょっと今の豊岡市に余り少ないのかなっていうふうに思うんですけども、ここはどのように思われますか。どなたでも。

○委員長（奥村 忠俊） 総務部長。

○総務部長（成田 寿道） 清水委員言われたことを私も実は感じます。組織が大きくなったっていうところもありますし、1人の持つ範囲っていうのがどうしてもパーツになっているっていう部分はいたし方ないのかなっていう部分はあります。ただ、そうでない職場、あるいは職員もたくさんいる中で、そういうふうに、こんなことしたらどうだろうとか、地域の人とこういう話をして、こういうふうに進めていきたいというようなところを若い世代の人たちが話を出してきたときに、やっぱり上の年代の者、40代、50代、60代の者、60代はいないんですけど、50代の者がそれをいかに話を聞いてやれるかっていうようなところが少し足りてないのかなっていうのが、先ほどの職員アンケートの結果にも出ているんじゃないかというふうに思いますので、その辺はキャリアデザインの中で、ことし、今スタートしてる中で、管理職の側も意識としてきちりその辺を改善していくっていうことにまさに取り組んでいきたいというふうに思っていますので、委員のおっしゃることを感じながら、そういう答弁にさせていただきたいと思います。

○委員（清水 寛） ありがとうございます。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいか。

どうぞ。

○委員（清水 寛） これは答弁は結構なんですけども、退職された某部長であったり、いろいろな方が実感として言われるのが、やはり外に出てみて初めて市の職員がいかに優秀かというのがわかるって言われました。それは民間の企業に入っていくって自分たちが普通に職員さんに接していく中で、して

もらってたことが、実は当たり前だと思っていたことが当たり前ではないということなんですよね。民間企業ではなかなかそこまで手が届く職員さんがいない、もしくは1回言って、2回言ってすぐできるようになるなんてこともないわけですよ。そういう意味では、非常に優秀なスタッフを抱えてるっていうのが、実は豊岡市の財産であり、やはりこれが一番強みはずなで、それがやはりやりがいというところで数字に見えてこないっていうことは、まさにそれは生かしてない。豊岡市がやはり今問題として抱えていることに全力で取り組んでいくっていう意味では、やはり何か枝葉のことではなくて本命のところ、本来政策を考えて実行していくっていう、そういうところにもっともっと注力していくべきかなと思いますので、ぜひ、その辺は考えをしていっていただきたいと思います。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 答弁よろしいか。

○委員（清水 寛） はい。

○委員（椿野 仁司） いいですか。

○委員長（奥村 忠俊） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 今のキャリアデザインとか、ここのことなんですけど、清水委員が最後のほうは大変上手におっしゃったんで、ちょっとちくっとだけさせてもらいますけど、確かに市の職員は優秀っていうか、だと思えます。だけど、今の退職職員が生かされてないっていうのなんだけど、僕は逆に言えばその培ったいろんなノウハウやいろんなものを、本来ならば公務員であったそのおかげであってそういういったいような知識や能力を授かったとしたならば、本当は地域に帰ってそれぞれの社会で本当はそういう役割を果たさないといけないね。生かしてないんじゃないかって果たしてないとは私言っときます。果たそうとしてカムバックしなった人もおんなるけどな。

それから、このキャリアデザイン事業推進、本当に僕はすごいいいことだと思います。それで、私たちがここにいる限りはこの結果はあらわれてはこないんで期待をしたいと思えますけれども、将来の豊岡市役所に期待をしたいと思えますが、ただ、あ

なたたちが経験してきた、全てじゃないですけど経験してきた、言えばリーダーって部長だとか課長、それから下の若手職員もそうなんだけど、それとのいろんなコミュニケーションとりながらいろんなことをやってきて、今のリーダーシップはとほとかいろいろとあるんだけど、これは大事なことですよ。でも、あなたたちが非常に苦い経験もした、さらにその上のトップの人とのかかわり合いも、それも十分いかうまく推進するために何が必要だろうか。ってことのノウハウを、これはまた、これは余分な話ですけど、その辺もひとつよろしくお願いをしたいなど。

それから、そんな話はどうでもいいんです、ごめんなさい。今の、これちょっとね、今、前も見せてもらったです、さっき言った田中君の質問に対しての私からもお願いしたんだけど、ちょっと今いただいた資料の中に但東振興局と竹野振興局の取り組みということで、いろんなデータも含めた考え方を書いたものをいただいているんです。これ、なぜ但東と竹野かっていう話を、今、伊藤議員と話しとったら、極端にちょっと深刻なところだからいただいたんじゃないでしょうかってことなんだけど、これはどっからもらった資料なのかな。以前視察に行ったときのそれぞれからもらった資料でしたか。

○委員（清水 寛） 1月のときに。

○委員（椿野 仁司） えっ。

○委員（清水 寛） 1月の委員会でもらってる資料です。

○委員（椿野 仁司） ああ、そうですか。

ということです。はい。それはいいです。

具体的にちょっと私のあくまでも思いつきなんですけど。ちょっとこれ、休憩してもらえます。

○委員長（奥村 忠俊） それでは、暫時休憩します。

午前10時16分休憩

午前10時40分再開

○委員長（奥村 忠俊） それでは、時間来ましたので、委員会を再開いたします。

先ほどはそれぞれの説明に対する質疑をさせて

いただいたんですけども、かなり課題もたくさんあるなというような感じもいたしております。ここでどう言ったからってということではないんでしょうけども、特に人口減少対策ということになってます。それを、その中の人口減のやっぱり中で、大きなウエートを占める部分っていうのは、先ほど子育ての話だとか、あるいは職場での働きがいの問題だとかということがあったんだと思うんですね。正直な評価をしはったわけなんですけども、やっぱり市の職員の方々の多くの職員は生きがいを持ったり、働きがいを持ってる、そういうものが非常に増えてきた、また見られるというような報告は残念ながらなかったように思うんですね。それは正直に言っているわけなんですけども、やっぱりその部分が意識の変革をしていただかないと、果たして政策が市民から受け入れてもらえるだろうかというような気がしました。だから、やっぱりきょうの委員会をさせていただいて当局側の説明を聞き、委員さんのほうからの意見も聞かせていただいて、そういう意味での整理ができつつあるんじゃないかと思っております。少しまだあの時間がありますので質疑に入りますけども、ひとつ言われた説明をされたことに対してどういう解決策を持ってるかとか、これに対してはどういう手だてをじゃあ市としてはしようとするのかとか、そういったことも本当はそれ、聞かせてもらわないと、現実を報告していただいたのはよろしいんですけども、聞くほうとしては、ああそうというようなもの、やっぱり生きがいを感じたり、委員会としてやりがいを感じるということにつながらなかつたと思うんでね、その点で少し補足があればお願いしたいと思います。

例えばこの資料を見させていただきますと、資料3ですけども、ここを見ますと、人口移動という点で自然増減と社会増減というのがあるんだけど、2018年見ますと、だんだん離れていくということになってしまうということで、これが社会増減でも少しずつ上がってましたけども、これが2017年から1年後にはこんなに開いてしまって倍ぐらいになったんですね。必ずしもこれが正確かどうか

いうのもありますけども、そういったことについてもやっぱりこういう手を打ちたいと思ってるとかいうそこら辺を、ひとつよく検討していただいております。お願いしたいなというのが僕の思いでございます。もし、何かご意見ありましたらと思うんですけども。

政策調整課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 先ほど資料3の人口減少のところでは、2017までは本当に地方創生が効いてきて、特に社会増減あたりはだんだんと減ってきてるなっていうふうに思ってたんですけども、2018年になると急にこうがたつようになったっていうところで、かなり危機感を持って取り組まないといけないなというのは思っております。ただ、分析として、先ほどもちょっと言いました景気がっていうようなところ、これは中嶋副座長、中嶋神戸大の先生が委員会の中で言われたんですけども、ただ、そこが本当にどうなのかっていうところも実際にわからないっていうのがありますので、さらに詳細な分析を進めて、本当に何が原因なのかっていうところから突きとめていく必要があるなというふうには考えております。

○委員長（奥村 忠俊） このテーマ、議論はできればあと15分程度で終わりたいと思いますが、まあこれに限らず何かあれば。

○委員（伊藤 仁） よろしいか。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 皆さん一生懸命取り組んでもらってる割には、今回3桁という数値が出てます。そして、グラフが見やすいなという印象ですけども、ここで聞きたいのは、トータルとしてこれグラフに載せてるということは、各旧町単位で出てるはずなんですよ。ですから、例えば今、ことし1,000人の減になってると。そしたら、どこの町がどうということ載せていただいたら、すごく見やすいですよ。例えばその36項目今回グラフを出していただけてますけど、各町単位は、それを寄せ集めたのがこのグラフなんだろう。だからそういうまとめを載せるんじゃないかって、これ、町単位で見たいのだから、そういったデータがつかれるのかつ

くれないのか。

○委員（椿野 仁司） さっき言っとったやん。

○委員（伊藤 仁） うん。

○委員（椿野 仁司） さっき言っとったこと。

○委員（伊藤 仁） 言っとった。

○委員（椿野 仁司） 田中君が言っとったこと。

○委員（伊藤 仁） ああ、本当。

○委員（椿野 仁司） うん。

○委員（伊藤 仁） それで、次に、目標数値について聞きたいんだけど、目標数値は、これ当面の目標数値ですか、全体の目標数値ですか。例えば、外国人は10万人って聞いたのに、ここでは8万人になってるし。当面はこの目標でいくんやと、最終目標はほかに持ってるんだけど、当面目標ですと言われるんですね。そのあたりを教えてくださいのと、あと1点は、先ほど結婚の話が出ておりましたけれども、統計をとってみたら若者は男性で50%、女性で4分の1しか帰ってきてませんよ。これはことしに始まったことじゃないわけですよ。これは何十年としてこの傾向あったはずなんです、数字として出したのが近年のことであって。となると、豊岡市内の男性は、嫁不足の心配というか、嫁不足の現状にあるんじゃないかと。男性は5割、女性は4分の1しか帰ってきてないとか。4分の1は、男性は絶対嫁もらえないわけですよ、豊岡市内におったって。だから、豊岡市の嫁不足の現状がどうなのか、深刻じゃないのかいうことをちょっともう一回再確認させてほしいんです。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 政策調整課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 先ほどの目標値のことではございますが、この戦略を立てたときの2014年度にその目標値を定めておまして、この計画期間の5年後、2019年度末でこういう数字になったらいなというところで、総合戦略を立てたときに5年後の目標を立てた数値でございます。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤委員、どうぞ。

○委員（伊藤 仁） 深刻じゃないんか。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 今、

伊藤委員ご指摘のように、ずっと経年見ていると、傾向としてはおっしゃるようにやっぱり男女の問題、男性が高く女性が高い。例えば1990年価値95年っていう……。

○委員（伊藤 仁） 何ページ見えます。何ページ見とるわけじゃないか。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） これ、ワークイノベーションでお配りしたやつなんですけど、例えば20年ほど前の数字だと、男女合計で52.6パー、男性が64.7、女性が38.7というように、やっぱり男女でかなり開きがあります。今言ったみたいに26.7女性がっていうのは近年で一番低いんですけど、傾向としてはやっぱり男女のところを開きがあるというのはご指摘のとおりです。

○健康福祉部長（久保川伸幸） 嫁不足がどうかということなんです。実態としてそこを把握してるというわけではないというのが答えなんですけれども、人口的に言うと必ずしも現状としてそこがアンバランスかということ、結婚は一定の年齢幅の中でいきますので、そこまでアンバランスということではない。ただ、独身かどうか、その独身の方が結婚を望んでおられるかどうかということになると、多分言われるような傾向というのはあるのかなというイメージはございますが、数字的な押さえをしているわけではないということです。

○委員長（奥村 忠俊） 伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 目標値については5年後の目標だということなんですけれども、僕はほかの数値を覚えてるわけじゃない、外国人10万人っていうのは5年後の目標値でした、それともその先の目標値でしたかというのがまず聞きたいのと、嫁不足の件なんですけれども、これは、この割合っていうのはここ最近始まったわけじゃない、何十年と前からこの傾向はあったはずですし、嫁ができれば欲しいと思っ
ていても、努力せな、これだけ女性の数が毎年減っているんだから、若者の女性の数が減っていると
なると、努力せな嫁はもらえんのですよね。だから、
そこまでして結婚したいかどうかっていうところ

があると思うんです。女性が余りに余っとれば努力
せんでもすぐに結婚できるでしょうし、だから結婚
をする魅力、努力をどこまでしてまで、そこまでし
てまで嫁をもらわんなんかという駆け引きの問題
だと思うんですよね。だから、そこまでしても独身
のほうがいいよっていう方もおられようかと思
いますし、何が言いたいんだろう。嫁不足がこの原因
になってないかっていうことを僕は言いたいで
す。

○委員長（奥村 忠俊） どうでしょうか。

久保川部長。

○健康福祉部長（久保川伸幸） 最後の嫁不足の部分
に関してですけれども、実態としてそこを把握して
るわけではないというのがまずあります。ただ、今、
私どもの事業の中では、一旦結婚をされれば一定の
数、子供がつけられるというのが豊岡市としてはよ
そよりは少しましだという部分、思ってるので、ま
ずはB戦略という中でも特に結婚促進というもの
に力を入れていこう。その結婚促進のあり方として、
一つには結婚相談所業務みたいなことをしっかり
やっていただくことが1つ。はーとピーみたいなイ
ベントの中で知り合っていただくことが1つ。もう
一つは、この人をお世話したいと思っただけ
の方がおって、その方が独身の方を世話して
いただく縁結びさんということで、そういった縁
結びさんという立場でお世話をいただく方を
ふやしていくという取り組み。今おっしゃ
られた、例えば40代、50代の男性の方、
そういった方っていうのはむしろその
辺からお声かけをいただいたり、結婚
相談所で気になる方で、ずっと抱え
続けておられるっていうような方も
あろうかと思いますが、総じてそれが
嫁不足という状況として豊岡市に
何か数字的にあられるかということ
になると、ちょっとそこは承知して
いない。だから、今言ったような
施策の中で、そういった方々にも
アプローチをしていただく方が、
お世話をいただく方がふえるよ
うに、そういった取り組みはして
いきたいということです。

○委員長（奥村 忠俊） どうぞ。

○政策調整課長（井上 靖彦） 済みません、先ほど

の外国人の宿泊ですけれども、2019年は8万人で、2020年度に10万人というような目標だったというふうに記憶……（「2020年」と呼ぶ者あり）はい。

○委員（椿野 仁司） 2020年だよ。2019年は8万人無理だね。

○政策調整課長（井上 靖彦） 目標としては、はい、そうです。

○委員（足田 仁司） ええっ、ほんなら一気に2万人ふやす。

○委員（椿野 仁司） いや、まあまあ、目標だからな。

○委員長（奥村 忠俊） じゃあ、よろしいか、伊藤さん。

○委員（伊藤 仁） はい。

○委員長（奥村 忠俊） あとはどうでしょうか。上田委員。

○委員（上田 倫久） いろいろ大変努力されるところだと思うんですけども、やっぱり抜本的に減るのを何か食いとめられないようなちょっとあるんで、2021年に専門職大学がですね、そのぐらいにはもう絶対つくってもらわな困るんだけど、つくってもらって、そこで生徒80人ですか、それと学生と教員、もうこの場所に全部来ていただくというのを、絶対にこれはもう避けることができないというか、もう一番に考えてもらいたいなと思っております。そのためには何が何でも協力をしていかなあかんと、豊岡市、但馬地域全部だと思っておりますけども、豊岡市もやっていってもらいたいなと思うことが一つと、平田オリザさんのことになるんですが、平田オリザさんがこの但馬の中に、東京から移ってこられて、青年団等も引っ張ってこられるというふうなことも実際今、動きがあります。

これは市長がよく言ってることなんですけども、女性が集まってくれば男性は来るだろうというようなこと。今、嫁不足のこともありましたけれども、女性が集まってくれば男性が来るだろうというようなことをよく言われてました。この前の平田オリザさんと懇談をしたときにも、生徒のほうはどうで

すかっていうふうなことを質問させていただいたんですが、7割は多分女性だろうというふうなことも言われておるし、この但馬、豊岡のことだけではなくって実際どうなるかわかりませんが、日本、ほいで世界からも引っ張ってくるというふうなことも言われておるので、それをやっぱり期待してやっていかなくちゃいけないなと思っております。

あと、地方創生のほうでは、椿野さんもよく言われてますけれども、観光産業ですね、観光産業のことについても今、城崎がボートチームの中の、今度ちょっと見てみましたらロゴが、城崎温泉っていうロゴがですね、ドイツのボートチームのユニフォームに入りましたし、そういう意味でいったら、但馬、豊岡の、城崎も特に観光を引っ張っていくというのが、やっぱりどうにか起爆剤になるんかなと思ったりもしております。

それと、これは市のほうになると思うんですが、この前も秋田のほうにネウボラということで、日本版のネウボラ、妊娠から出産、子育てまでの切れ目ないシステムをつくっておられる。実際、豊岡も久保川さんのほうにお聞きしますと実際そういう施設ができる、システムができつつありますので、そういうのを利用して、この豊岡市、特に但馬中は周産期医療センターもありますし、安全で安心して産める場所でもありますので、その3つを起爆剤として進めていってもらった……。質問になるかわかりませんが……。そう思ったりします。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） そしたら、政策調整部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 委員おっしゃるとおり、いろいろな施策を今後展開していかないと人口減少対策にはならないということで、第2期におきましても、切れ目のない取り組みということで今後も進めていきたいと思っております。

それと、あともう一つは、地方創生の今の戦略なんですけど、なかなか短期的には結果が出てこないというようなことでございまして、長期的に見ていかないと現在の施策というのは見えてこないということがございますので、ただ、なかなか短期的な効果というか、成果がつながるような取り組みも第

2期の中では盛り込むべきなのかなということも、地方創生の戦略会議のほうで検討していただくようなことも考えておりますので、何とか引き続き取り組みを進めていきたいと思っております。

○委員長（奥村 忠俊） じゃあ、嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） 先ほどちょっと宮本課長かな、説明いただいたは一とピーの確認で、今年度から社協から移ったということで、データは4月から5月までの、さっきあったのは。（「はい」と呼ぶ者あり）それは53人で11組が一応カップルとして成立したという。これはあれですか、データが入ってればあれなんだけど、社協の前年度期比と比較してどういう水準になるのかは把握してる。

○健康増進課長（宮本 和幸） 申しわけございません。今の比較はちょっとできてません。

○委員長（奥村 忠俊） 久保川部長。

○健康福祉部長（久保川伸幸） 先ほど申し上げたのは、今年度に入ってから、4、5、ほぼ2カ月ぐらいでの様子です。昨年度はということになると、去年1年間で例えばは一とピーでは11回開催をして、参加は344人、カップルは83組。成婚はっていうと、その年に会ってじゃなくて、このは一とピーという事業を通じて知り合って、結果、去年結婚しましたよという報告になるんですが、それは8組という報告です。先ほど申し上げたのは、あくまでこの2カ月での動きでありますので、2回実施をして53人が参加をして、カップルになったのは11組というのは、この2カ月でのということでご理解をお願いします。

○委員長（奥村 忠俊） 嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） 例えば、よく発表をしていただいているのがインバウンドの数字、あれらはとにかく1年を4分割して、四半期の1、2、3、4というようなかたちで、逐一情報が入ってるわけですよ。ああいう数字を出してもらって非常にわかりやすいというか、具体的にどうなのかという。やっぱりそういう統計のとり方をしていただくと、きめの細かい。確かに今、計画のための計画みたいになってる、例えば3年なり5年なりという長期スパンで、

目標はいったらはあるかかなたにあるような推計して無理やり出しとるようなね、何かちょっと、先ほど誰かが言ってた絵に描いた餅というか机上の空論で、計画のための計画になってないかなというちょっと気はしてるもので、一生懸命計画ね、努力してつくってもらってというご苦労はよくわかるんですけども、ちょっと何か方向的に、まあ必要であることはあることなんですけれども、いろんな資金なり、財政的な面からいったらそういったものも必要なんだけど、そういったもうちょっとこう、きめの細かい、これ、第2期地方創生総合戦略の中で、検討すべきキーワードの（3）に書いてある短期的な成果につながる取り組みとか、これがやっぱりないとみんなモチベーションが下がっちゃうと思うんですよ。余りこう中長期ばかりやっぱり追っかけちゃうと。だから、議員にしても、長期的な視野も大事なんだけど、短期的にはどれくらいの効果があったのか、どういう実態なのかということかが逐一わかれば、もうちょっと皆さんやる気になって、しっかりと議論ができるんじゃないかなというふうに思うんですけども、その辺は、もし意見があったら言ってください。

それから、もう1点、今出てます人口移動報告なんですけれども、あれだけやっぱり手を打っていただいとるんですけども、歯どめをかけるために、ところがやっぱり社会増減でいうと転出が抑制できない。転入はまだ仕方がないんだけど、転出の抑制ができない、特に18年度。それから、自然増でいうと出生がもう、これは全国的な傾向で、2018年度が一番ここは最低というふうなことが出てるんですけども、全国的にはそうだけでも、ここだけは、豊岡市だけはふえとるというような、そういった材料でもあれば、非常にこう、しっかりとPRできたと思うんですけど、残念ながら同じような状況になってしまって、3桁が4桁になってしまったということが、ちょっと非常に気になることでもあります。先ほど言っとった来年以降は、2021年4月からか、それからはちょっと若干の人口増になることを期待しておるわけなんですけれども、それで、言い

たいところはそういったところで、中長期計画はもちろん大事なけれども、もっとこう、即成果がわかるような、そういった取り組みの方向も大事なんじゃないかなという話をちょっと意見として述べておきましたので、何かそうじゃないよというような意見があれば。どうですか。

○委員長（奥村 忠俊） 政策調整部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 先ほどもちょっと若干申しましたけども、第1期の地方創生の総合戦略の中に委員おっしゃいましたとおり短期的な成果につながる取り組みというの、やはりこれも、つなぎの政策ということもないんですけども、長期的な政策に対するそれまでのつなぎの政策というような感じで、短期的な成果につながる取り組みも必要になってくるんじゃないかということで、地方創生の総合戦略会議のほうでも、ちょっとこの辺をどういうふうにしていったらいいかということを検討していただきたいなと思っております。以上でございます。

○委員（嶋崎 宏之） よろしくどうぞお願いします。

○委員（椿野 仁司） 委員長、いいですか。

○委員長（奥村 忠俊） はい。

○委員（椿野 仁司） さっき休憩のことばかりしか言っておりませんでしたけど、ちゃんとした質問とちゃんとした意見を言いませんで。

○委員長（奥村 忠俊） お願いします。

○委員（椿野 仁司） 許可いただけますか。

○委員長（奥村 忠俊） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 僕は、この人口減少問題って本当大きな課題なんだけど、どこの地方もみんな一生懸命取り組んでおられるんだけど、豊岡にとって本当に策が、一生懸命やってもらって、専門職大学もいろいろと、妙案もいろいろとあるんだけど、本当にいい策があるのかなって思ったときに、余りないですよ、申しわけないんだけど。

今、全国的にいろいろなことをされて、あなたたちのほうがよく知ってもらえると思うんだけど、私たちもこの間総務委員会で、旭川の近くの東川町っていうところに行ってきたんですね。そこは、30分ほ

どで旭川から移動したらその町へ行くんだけど、ホテルの支配人が、今からどこ行かれるんですかって言ったら、いや、東川町に視察に行ってきますって、どういうことを視察されるんですかって言ったら、人口減少のこともあるんですけど、いろいろいろいろなことを聞きたいんですけどって言ったら、そして、旭川市は東川町にようけ人をとられとるって言われた。確かに、ここは総務委員会、じゃあ、おられますね、東川町の人口ふえてるんですよ。それで、やっぱり勤め先は旭川なんだ、30分ぐらいだったら。住むのは東川町。その中で一番大きなメリットは水道代がただ。これ、大きいですよ、ほかにもいろいろとメリットあるんですけどね。

今まさに人口がどおとそこにいきとるのは、例えば明石もそうだよ、この兵庫県の中で。結局、子供支援、例えば教育費ただ、医療費ただみたいな世界がぶら下がってくとそっちに移る。ただし、働くところは都会で働きたい、働く場所が、職場があるから。田舎にみんな引っ込んで帰ってきて、職場も生活もそこでするっていうのはよほどのことがないとできないのかなとすると、何が言いたいかっていうと、やっぱり何か大きな得策っていうか大きな策がないと、引きつけるものがないとやっぱり無理なのかなってすると、豊岡はなかなかそれが。今さら、今盛んに議会でも言ってる子供支援の策をこうせえ、あせえって言っても市長はなかなか、無料化なんてとてもできないというようなこと言って。それがいいとは私は思いませんけど、よそがやってることやったところで、例えば豊岡が一気に、今、医療費ただ、教育費ただって言ったって人がそんだけ来てくれるかっていうと、私はそれはないと思います、皆無、若干あるだろうけど、爆発的なことにならない。

だから、じゃあ、何が言いたいかっていうと、さっきの田中君の質問じゃないんだけど、僕は但東町は但東町、出石町は出石町、それぞれの地域の取り組みの中に人口減少を歯どめする、なおかつ、それからどういう地域に合ったIターン、Uターンをやるかっていうことの、竹野でいうと、たけのスタ

イルって昔あったんだけど、それでいくと各地域のスタイルをもっともっと、地域の策を、地域の特性を生かしたやり方をもっと打ち出していくべきではないのかな。豊岡市全体で取り組むことであるんだけど、それぞれの地域が持っているいろんなものを、いろんなものをあると思いますよ、たくさんいろんなもの。それをもっと表に出してあげて、うちの町に来てくださいというものができる。

そのためには、ふるさと納税なんかもそういうものに役立てることができないのかなと私は思うんですよ、こういうことに対して。今のカーニバルとか但馬牛ばかりじゃなくて、品物ではなくて、返戻金の一つに、きょうも香住で何かあったよね、ふるさと納税の使い方について。但馬版にあったよ、浜上町長も写ってましたよ、きょう。そういう意味でのふるさと納税の使い方を、それぞれの地域で合った、我が地域、我が町に来てくださいという特色を打ち出したものにできないのかなというふうに思うんですが、どうでしょうか。長くなりましたけど。

○委員長（奥村 忠俊） 政策調整課長。

○委員（椿野 仁司） 真剣に考えますでもいいですよ。

○政策調整課長（井上 靖彦） 先ほどからも、各地域のということで委員からご意見いただいております。各地域、振興局単位ではそれぞれまたちゃんとどうやったら人がふえるかっていうのはそれぞれ考えてはいますし、今でも継続してやっているというふうに思っておりますので、ただ、数字として本当にそれがきいてるのかどうかっていうところも必要だというふうにも思っておりますので、引き続き振興局と連携しながら地方創生は進めていきたいというふうに思っております。

○委員長（奥村 忠俊） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） もうね、待ったなし。それから、何でもありだと私思います。いろんなことをやって、本当にちょっとでも人が来てくれる、人が帰ってきてくれるやり方を考えて、にしとかなないと、僕はもう時間がないのではないのかなというふうに思いますので、よろしく。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） 足田委員、どうぞ。

○委員（足田 仁司） どうしてもお尋ねしたいことがあって、市長のいろんな事業やってる方針の中に、例えば今度新しく文化会館、新しい文化会館どうするかっていうときに、交通の便っていうので候補にあがった、出石、竹野だったかな、そこがバツになってる、利便性。ところが、平田オリザさんが日高に住む。日高の旧商工会の建物を劇場にすると。この利便性どうなのかなと。でも、新しい文化会館は歩いていけるところにつくりたいってたしかおっしゃった。そうすると、当然市街地のどこか近くっていう。歩いて行けるってたかだか知れてますわね。だから、周辺の高齢化が進む町では100メートル先の歯医者に行くのにタクシーで行く、そんな現実が実際起きとるんです。だから、利便性というのはの考え方も一つですけど、市長の方向性としたら、いろんな公共施設、それから文化施設を市街地の近くに集中させていたい、こう読み取れるかなと。だとすると、この1月にもらった資料かな、人口の減少率見ても、やっぱり豊岡が一番減少率少ないです、人口。ほかの減少率が大きいことは、同じ豊岡市内でも市街地のほうは人口がまだ踏ん張ってる、周りはどんどん減っていったらというのに、そんな感じを受けます。それと、限界集落が統計があって、限界集落、準限界集落、小規模集落、みんなふえてるんです、倍増どころの話じゃないです。

つまり、何が言いたいかわかると、人口減少を食いとめるためには豊岡市街地中心にした、そこに一極集中もうやむなしなのか、周辺のがたがたがた減っていくようなところに幾ら力注いでも、そない下げどまりはせえへんやろうと、腹の底でどういふふうにご考慮されるのか。そこは、市長は言っておられることは全部市街地に、いろんな商業施設にしても文化施設にしても公共施設もみな集中させようと、それが利便性も高い。いや、わかるんですけど、そんな文化施設も含めて充実した地域と、どんどんつぶされていく周辺の旧5町の地域と、よそから来たらどっちに住みたいかわかると、やっぱり利便性の高い、文化度の高いところっていうこと

になるとしたら、人口減少を食いとめるためには一極集中やむなしという立場に立って政策展開をするほうが効率よさそうですね。その辺はどんなふうに考えとんなさるんかなというのを、ちょっと出してほしいです。

○委員長（奥村 忠俊） 政策調整部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 市長の腹の中は、ちょっとそれはわからないですけども、ただ、一極集中ということは考えておられないとは思いますが。例えば今回の公共施設マネジメントにしても、地域ごとに地域デザインというようなことで、地域でいろんなそういう欲しいものというか、地域として必要なものを検討していこうというようなことでございますし、確かに利便性の点では駅があつて、バスが走っててっていうようなこともあつたりして、今回、新文化会館は今のところ総合体育館のところに候補地とはなってますけども、ただ、全てのものをそういうふうに全部ここの市街地に、旧豊岡の市街地に持ってこようという考えではないとは思いますが。それぞれの地域の合った地域デザインということで今後も考えて、公共施設マネジメントなんかでも考えているということですので。以上でございます。

○委員（椿野 仁司） 違いますとは答えられへんよな。

○委員（足田 仁司） 答えにくい質問だったと思いますが、塚本部長の言葉にちょっと期待をしながら。そういう、やっぱり人口減少を食いとめるためにはどこに力を入れるのが一番効率的かなと思ったら、個人的には一番市街地あたりを力を入れていくことが、まずは人をたくさん寄せる力につながるという感じがありますので、限界集落やなんかを構つとる暇があるのかなって思っちゃいます。ですから、人口減少の重点的な取り組みというのは、やっぱり一極集中やむなしとして進めるべきなのかどうか、自分の中でも迷ってますけど、そこは難しいとこだと思いますけど、でも、一番効果的かなって思います。これ、意見です。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） よろしいですか。

活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。

これで当局側の意見いただいて、質問するという時間は少ないんですけども、非常に気になりますことは途中で申しあげましたように、職員のやっぱり問題意識であると、働きがいだとかいうところ辺にそういうような問題があるような感じがしました。この部分が解消しないと、やっぱり市全体で行政の取り組みがしっかり伝わっていかないというような気がしてならないんですけども。これ、人口減少対策委員会ですから、この件をテーマにするんですけども、なかなかその政策的に市の政策を見ましても、人口減少対策は成功するなという感じがなかなか見受けられないというのがありまして、委員会でも非常に苦しいテーマを取り組まざるを得ないというのは常々思ってます。これからも頑張っていかなきゃと思っておりますけども、非常に重要なテーマでございますし、議会のほうも頑張っていきたいと思っておりますけどもね、当局側にやってもらうことばっかりですんで、そういったことでがんばっていただきたいと思います。

そしたら、当局、はいはい。

上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 職員の働きがいつていう部分がかかなり問題視していただきました。本当、おっしゃるとおりでございます。ちょっと4月、5月でキャリアデザイン研修って全職員、あと、管理職、課長以上全部やった中で、アンケート調査もきちっとりながらやってます。という中でやっぱり、どう言ったらいいですかね、ジェンダーギャップというような性別による格差だけじゃなくて、アンケート調査の中でやっぱり上司、部下っていうジェネレーションギャップっていうんですか、年代間の、ここのコミュニケーションがなかなかうまくとれてないのかなっていうような意見も結構ありましたんで、そこはキャリアサポート制度っていつて、それぞれの職員が自分の今後のありたい姿、やりたい仕事、それからライフプランを年3回シートをつくって上司とコミュニケ

ーションを図っていくっていう方法をとったりとか、なかなか直属の上司には相談しにくい場合、メンタリング制度って、メンターっていうのを庁内で、私もそのうちの1人なんですけど、5人設定して、そこは気軽に何か相談してアドバイスができるというような、そういうメンタリング制度も導入していくっていうことと、やっぱり上の、高い、そのさらに上の、例えば係長だったら課長補佐とか課長とか部長とか、上の役職を担うことに自信がないという職員が結構多かったという、そういう結果も出ますんで、そこを十分コミュニケーションも図りながら、そういう上の職につくためのいろんなスキルもつけられるような研修を、ずっと職員の意見とか、専門家の力もかりてきちんとそれは対応していきたいなど。あと、職員の意識調査は毎年やって、どれだけ意志が変わってきてるかっていうのをきちんと把握して、また強い部分はさらに伸ばして、弱い部分っていうのはさらに補っていくっていう、そういうことをずっと繰り返してやっていきたいというふうに考えてますんで、ぜひ、その経過報告っていうのはきちんとまた委員会のたびにさせていただきたいと思います。

○委員長(奥村 忠俊) ありがとうございます。

よろしいですか。(「はい」と呼ぶ者あり)

○委員(嶋崎 宏之) 時間切れになって申し訳ない。

○委員長(奥村 忠俊) 嶋崎委員。

○委員(嶋崎 宏之) せっかく社協さんが市役所に入ったんで、もう一步突き出たというか、例えば合わせて、カップル組んではいおしまい。これだけじゃ余りにも足りないんですが、だから、今までやったのと変わらないということじゃなく、もう一押しっていうのは、結婚されたら申告してもらったら何らかの祝い金みたいなものを渡してあげるとか、そういうもう一步進んだ政策をとっていただくと。せやから、単純に同じようなことをやっても意味がないんで、その辺のちょっと今までとは違うやり方でやっていただければありがたい。

○健康増進課長(宮本 和幸) まさに今、議員のほうがおっしゃっていただいたとおりでして、今まで

は体制が違うのでフォローとかそういったのができないという問題点もありましたので、今回、市のほうで、健康増進課のほうでやるということで、アフターフォローのほうはしっかりしていきたいなと思ってます。

あと、今の報賞とか、ちょっとその辺はまだあれですけど、また今後検討はしていきたいなとは思ってます。以上です。

○委員長(奥村 忠俊) 質問じゃないですけども、答弁を自分がやり直すような場面もちょいちょいありますんで、本当に悲しいなと思いますけどね、職員の人もひとつ頑張ってもらって、市民のために、お願いしますわ、もう。人口減少対策委員会が何の成果もなしに終わるやなんてできませんので、よろしお願いしたいと思います。ご苦労さまでした。

[当局職員退席]

○委員長(奥村 忠俊) それでは、次に進みたいと思います。

それでは、委員会の運営方針について、別紙1を添付しております。

特にご意見がなければ前回と同様でいきたいと思いますが、ご異議はありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(奥村 忠俊) ご異議がないようですので、そのように決定しました。

それでは、その他ということで、管外視察について事務局から説明をお願いします。

○事務局主幹(小林 昌弘) 管外視察につきまして、行程、内容のほうが確定しましたのでお知らせをさせていただきます。

管外視察のほうの行程表の資料をごらんください。7月11日、12日の1泊2日で鳥取県の八頭郡八頭町、それから八頭郡智頭町、それから倉吉市のほう、3カ所視察に行きます。11日は8時本庁を出発しまして、山陰近畿自動車道を通って、10時、八頭町のほうで10時から12時ごろまで約2時間の研修です。八頭町のほうで昼食をとりまして、その後約30分かかって智頭町のほうに行きます。智頭町で14時30分から16時30分の研修で

す。そこから倉吉市のホテルのほうに移動しまして、宿泊先のホテルに到着が17時30分の予定としております。

次の日、12日の金曜日ですけれども、倉吉市役所が10時から11時半、約1時間半の研修で、そのまま倉吉市内で昼食をとりまして、13時から15時が倉吉市内の視察ということで、特に今予約はしてないんですけども、倉吉市内の白壁土蔵群ですとか、そのあたりを視察を考えております。本庁に到着が17時10分ごろの予定としております。

その同じ資料の3ページ、4ページ、5ページのほうに、視察研修事項ということで各視察先への質問事項のほうを上げております。また、もう一旦視察先のほうにはこの質問事項のほうを投げてるんですけども、これ以外にまた聞きたいということがあれば、また事務局のほうに言っていただければ、すぐメールで送らせていただいて、当日回答はいただけると思いますので、よろしくお願いします。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） ありがとうございます。

今、事務局のほうから説明をしていただきました。この視察先につきましては、椿野委員さん大変お世話になりまして、バスで行くことですから、できるだけ近くへということがあって、今、それぞれの3つの視察先を選ばせていただいております。人口を比較しますと、ちょっと全然豊岡のほうが大きいんですけども、しかしそれぞれ地域の特徴を生かした取り組みをしとられるということがありますので、3か所視察にいきたいと思っております。

今言いましたように、質問事項、こういうことがあるなということがありましたらまた事務局のほうにまた言っていただいたらと思いますので、きょう、もしなければ、また事務局のほうにお申し出いただきまして、またその後調整したいと思います。それでよろしいでしょうか。何かご意見、質問何かありますか。よろしい。

○委員（椿野 仁司） 近いところっていうことで、鳥取も島根も人口減少かなり厳しいし、島根は遠いんで鳥取でいこうかって話になって、石破先生に電

話して、石破事務所のほうから人口減少でちょっと頑張ってもらえるとこ教えてくださっていったのが、今の視察先になりましたので、石破先生はご存じのように八頭町出身なんで、小さい町ですけど、そこから政治家で頑張ってこられたんで、そういうこともあって、また、石破先生にもお会いになることがありましたらお礼を言っといてください。（発言する者あり）ありがとうございます。

○委員長（奥村 忠俊） そういう、今、椿野委員の説明がありましたけども、そのとおりでございまして、大変助かりました。

それでは、日程どおりに視察をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたと思います。

では、ほかはないようでしたら次に進みたいと思います。

2つ目に、管内視察ということを考えておりまして、せんだって副委員長と相談をさせていただきました。時間的なこともいろいろあるんでしょうけども、8月9日あたりで管内視察を。

○事務局主幹（小林 昌弘） 管内視察について、先日正副委員長のほうともお話をさせていただきました。管内ということですので、豊岡市内に限られます。かねてからお話が出てましたけども、人口減が著しい旧竹野町、それから旧但東町のほうに行かせていただいて、お話を一度お聞きしたいということで、日にちの候補としては8月の9日の金曜日の午後あたりで正副委員長のほうとも調整をさせていただいております。内容については、今回まだ話はしてないんですけども、但東地域のほうに出向いてお話が聞けたらなということを考えております。以上です。

○委員長（奥村 忠俊） そういうことでございます。皆さん、何かご意見や要望がありましたらお願いしたいと思います。

○委員（椿野 仁司） 今、いいですか。

○委員長（奥村 忠俊） はい、どうぞ。

○委員（椿野 仁司） そのお考えでいいと思うんですけど、ただ、但東だけって言いなつた、今。但東だけ。

○委員（奥村 忠俊） よろしいか。但東と竹野というところで一番進んでるのだそうですから、人口減少が。それを考えたんですけども、ものすごい距離がありまして、それがあって、果たしてこれ、午前、午後で行けないことはないんですけども、どうかという部分は感じたもんですから。

○委員（椿野 仁司） それか委員長、但東午前、午後って言って、あれだけの広域ですから、それは高橋、資母それから合橋、全部回ろうと思ったら回ると、くまなく見ていくこと大事なことで、出石も市街地以外の山間部は同じように非常に厳しい状況なので、出石もいいのかと思ったりもするんですけども。ただ、見に行つて、話を聞いて、どうするんだろう。前も田中君が人口減少で見に行つて、但東町と竹野見に行つたけど、何を見に行きなつたのか。

○委員（田中藤一郎） 空き家と、どういう現状かを。

○委員（奥村 忠俊） ああ、現状見に行きなつた。ひどいなあっていう状態。

○委員（田中藤一郎） かなりひどい。

○委員（椿野 仁司） かなりひどいになって、そのね、かなりひどいを見に行くだけじゃあ、どうなのかな。だから、政策的にどんなことができるのかなって、人口減少問題で、さっき言つた各各地域のいろんな問題点や地域の抱えるいろんなデータ、現状はどうだつていうことを抱えながら、じゃあ、どういう取り組みをしなきゃいけないかということであれば、もうちょっとそういうところまで突っ込んだところの事前のいろんなことも我々が予習していきながら行かないと、さっき言いなるように、空き家だけがようけ、これ、ちょっと大変だわつていうだけじゃどうなのかなと思ったりもするんですよ、委員長。

○委員長（奥村 忠俊） 言われることはそのとおりだと思います。ちょっと考えてみますことは、できれば但東町に決めたというのは、地元の人たちとどれだけ接触ができて、そして、私たちのほうがどうすればいいかという結論を持つてわけじゃありませんし、政策を。そういったことがあるので、現

場であるとか状況を見るのはよくわかるんですけども、そこに住まわれてる人たちがじゃあどうすれば、実は人口減少を一步でも二歩でも防ぐことができるか、難しいことですけども、また、人口が減つて途中でどういう生き方をしようとされてるのかつていうようなところ辺も少し、深く入つたらどうかという気がしておりますね。私は出石ですんで、まあ但東町のずっと人口が減つて、もう本当にこんな減つてるところを通ります。しかし、そこで住んでる人たちは、じゃあどういう思いをとつられるかいうところまでは、なかなか把握するところにはいかないもんですから、今回の視察はそういうことを兼ねて、現場を見せていただくというものもありますけども、その地域の人たちがこんな考え方を持つてるといふ声も聞かせてもらえるのが非常に重要じゃないかなという思いをして一か所に決めたいですわ。

○委員（椿野 仁司） いいと思いますよ。ただね、年代ですな。これからの世代と話しするのか、お年寄りと話したら、もうそんなこといいから今のくらし何とかしてくれいやと言われますで。（「そうですな」と呼ぶ者あり）あんなもん、もう一度何とかわしらが今生活することが不安でしゃあないって、何とそういうこと議員さんやってくれやつていう。

○委員長（奥村 忠俊） 今、椿野委員のほうから指摘があつたの、非常に重要だと思うんです。現場を見て、そこで暮らしとんさる人たちの意見を聴きたいなと思つたんですけども、言われるように、そこにおられるかどうか別として、若い人たちもあるわけですからね、いろんな事業所なんかもあるので、もし、そういう人たちが協力してあげることでしたらどつかにお住まいいただいてね、そういう人たちの声を聞くと。どういうことを望んでおられるかを直に聞くことが大事だなと思つたのでね……（「青年部は」「商工会」と呼ぶ者あり）そういう形をとつたらどうかと思つたんですけども。午前中、午後つてなつてますけども、これは別に午前、午後関係なかつて。ここで暫時休憩します。

午前 1 時 3 5 分休憩

午前11時43分再開

○委員長（奥村 忠俊） 休憩閉じ、委員会を再開いたします。

先ほどより話をさせていただいておりますけども、管内視察につきましては8月9日午後を予定しております。視察先は但東町、旧但東町ですね。地域の現状を知るといことで、地元におられる方の声を聞かせていただきたいといことで、詳細は正副委員長にお任せいただきたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、この際ほかに何か発言がありましたらお願いしたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（奥村 忠俊） では、ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。

午前11時44分開会
